

城南家保ニュース Vol.28-2

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



「平成28年熊本地震」の家保業務への影響について

4月14日から発生した「平成28年熊本地震」により、熊本地方及び阿蘇地方では甚大な被害が発生しました。

この地震で当該地域の畜産農場や畜産関連施設においても、家畜・施設含め大きなダメージを受けておりますが、幸い、人吉・球磨～水俣・芦北地域では、経営に深刻な影響をもたらすような被害の報告は確認されていません。

しかし、熊本県庁全ての機関において、当面の間「通常業務は重要性を勘案のうえ優先順位を検討・取捨選択」し、有事に備え全庁的に対応できる体制をとっております。

家畜保健衛生所も現在、被災農場関連業務を最優先に、主に急性伝染病疑似病性鑑定対応、申請による有料の検査・証明書発行業務及び法律に基づく検査業務に絞って実施しています。

県央部を東西に走る断層の地震活動は、未だ活発な状態との分析がされており、県南部においても予断を許さない状況ではありますが、早く県全体が平穏を取り戻し、元気な「熊本の畜産」に向け復旧復興できるよう、家保職員もできる限り取り組んでいきます。

年度始めから事業が滞る状況となっておりますが、災害からの復旧回復状況をみながら、なるべく早く、通常の家畜保健衛生業務に復帰したいと考えておりますので、いましばらく管内の畜産関係者の皆様におかれましては、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

身近な危機管理を再確認しましょう

自然災害に関しては、畜産現場にも様々な危険が存在しますので、今一度、農場における危機管理を見直しましょう。

○地震、土砂崩れ等の風水害の場合

① 周囲の危険度チェック

- ・畜舎内の高い場所に重い物を置かない
- ・畜舎出入口付近に倒れそうな物・棚を置かない
- ・危険箇所のチェック（天井、梁や壁の破損箇所）

② 異常に気づいたら早めの避難

- ・地鳴り、山肌からの出水、普段と異なる泥くささや異様な臭いがしたら早めに避難

③ 停電、断水時の対策

- ・ライフライン停止が予想される時は、事前のタンク貯水、自家発電装置試運転



土壌菌による疾病について

地震や毎年訪れる雨季・台風シーズンの土砂災害等で畜舎内に雨水・土砂が流入した場合などに、普段は土壌中に隠れている嫌気性細菌が畜舎環境に現れ、病害をもたらす場合があります。以下に代表的な疾病を示しますが、万一被災を受けた際は、速やかな畜舎環境の改善と消毒によりこれらの発生を防止しましょう。

炭疽（家畜伝染病）

牛、馬、めん羊、山羊で感受性が高い。主に経口感染し、発熱、天然孔の出血を伴い急死。血液中に炭疽菌に特徴的な大桿菌を確認（写真上）。ワクチンで予防可能。



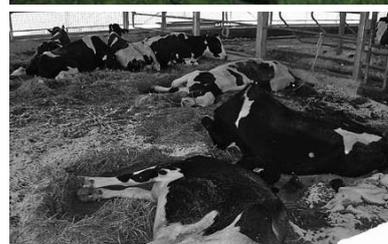
破傷風（届出伝染病）

牛、馬、めん羊及び山羊で感受性が高く、傷口から感染。全身の筋肉の強直性痙攣、呼吸困難で死に至る（写真中）。



ボツリヌス症

牛、鶏で災害後に散発事例あり。後躯麻痺が全身に広がり、起立困難、流涎、呼吸困難で死に至る。短期間で多数の家畜が死亡することがある（写真下）。



※炭疽・破傷風は人獣共通感染症に分類されますので、疑わしい症状を呈した家畜を発見した場合は、かかりつけの獣医師又は家畜保健衛生所へ速やかにお知らせください。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	韓国	2月17日～3月29日	豚	O型
高病原性 鳥インフルエンザ	台湾	4月6日	地鶏	H5N8
		4月6日～4月9日	がちょう	H5N2
	韓国	4月5日	あひる・地鶏	H5N8

5月1日現在

編集後記 (M.K)

初めての城南家保赴任、約20年ぶりの独身生活?!の独り暮らしにも少し慣れようかとした矢先に思わぬ熊本地震の発生。災害対応に備えた縮小業務での滑り出しとなりましたが、こんな時だからこそ担当する業務内容の熟知、資機材の保管場所や動作確認、検査機器の取扱い等々、新しい職場での備えがじっくりできたことをプラスにとらえていきたいと思います。「何事も前向きに、がまだそう熊本！」